

新年お慶び申し上げます



平成22年 新しい年を迎えて

あけましておめでとうござい
ます。

皆様には今年一年の想いを胸
に、お健やかに新しい年をお迎
えのこととお慶び申し上げます。

昨年4月、町長に就任以来こ
れまでの町のとりくみや状況を
知ろうと、現場で活動しておら
れる団体の会合などに積極的に
出席し、意見交換や、現況の把
握に努めて参りました。その中
で、住民の皆様方・グループ

の力・地域の力の大切さを改め
て感じました。

昨年、アメリカ発の金融不況
に端を発した、世界的な金融危
機・景気低迷・デフレ化の進行
が我が国を襲いました。その結
果、経済の低迷する本町にあっ
ては、一段とその厳しさが増し
ていきます。

また、昨秋の政権交代による
事業見直しは、今後の国政の期
待と不安の中、先の見えない状
況にあります。新年度は、そう
いった施策の情報を的確に把握
し町政を展開したいと考えてい
ます。

さて、町長就任後これまでの
事業について検証する中、介護
予防を目的とした「歩くプール
建設」は様々な角度から検討し
た結果、総合的な観点から「中
止」という重い決断をいたしま
した。また地方経済の低迷する
中、国による地域活性化経済危
機対策臨時交付金約4億6千5
百万円が本町に提示されたこと
を受け、町では早期の地元経済
への波及効果を考え、町内事業

者を優先するという考え方を基
本に事業を進めるため、6月定
例議会に経済活性化のため補正予
算を上程し議決されました。

次に個別の施策では、第一に
産業活性化策として、大山恵み
の里づくり計画の一つである、
農産加工施設は検討を重ね、将
来に向けて持続可能な事業内容
へ改めました。加工製品は大山
ブランドとしての商品化を進め
ます。現在農産加工施設は、商
品開発・販路開拓・拡大をめざ
して、中山地区に3月末完成を
予定し、建設を進めています。

第二に「住民視点」の町づく
りを進めるため、まず、各集落
で区長さん・まちづくり推進員
さんのご協力をいただき、ムラ
からの課題や提案を発信する
「健康診断」を実施することと
いたしました。そして、集落で
とりくむ事業・広く地域で、あ
るいは行政でとりくむことを出
し合い、住民と行政が共にとり
くむ町づくりをスタートさせた
いと考えています。また、そこ
からの課題や提案は、今後大山

町総合計画の後期5カ年計画に
反映させていく考えですので、
老若男女参加型の「健康診断」
ができることを期待していま
す。

第三に少子化が進む中、子育
て・教育の充実が求められてお
ります。教育施設の耐震化・大
規模改修事業により、施設の充
実に努めています。さらに、就
学前までの子育て・幼児教育環
境の充実を図るため、保護者・
地域住民を交えた保育所再編の
検討、拠点保育所設置のとりく
みを進めながら、保護者・住民・
行政が一体となった子育て支援
体制づくりに努めたいと考えて
います。

第四として福祉の充実。「ま
ず健康」からだと考えていま
す。住民一人ひとりの疾病・介
護予防の啓発・事業実施と共
に、地域で支えあう仕組みづく
り、またその育成・強化が必要
です。高齢者の気軽な外出支援
等を含めた公共交通の総合的プ
ランづくりも進めてまいりま
す。

ければなりません。
この様にまちづくりの中には
様々なテーマや課題があり、こ
れらは住民の皆様と行政が一丸
となつて「住民視点」のとりく
みを進めることが重要です。そ
れが次代に継ぐ着実な一歩一歩
であると考えています。合併時
に策定された総合計画を基本と
しながら、急激に変化する時流
に応じた町政も必要です。
今年、第一歩として「ムラ
の健康診断」からスタートしま
す。「わが町が輝き・誇れる大
山町」をめざし、元気で安全・
安心して暮らせる町づくりを全
職員一丸となつて、一生懸命頑
張ってまいります。
町民の皆様方より一層のご理
解とご支援、ご協力を賜ります
ようお願い申し上げます。
皆様のご健勝・ご多幸と大山
町のますますの発展を祈念し、
新年のごあいさつとさせていただきます。

大山町長

森田増範